

水ぎわのススム

宮崎大学MAGAZINE

vol.17 2014

宮崎の水環境 どうすれば守れる？



ともに新たな未来へ

教職員紹介 本多 新(テニユアトラック推進機構准教授)

ゼミ紹介 本多研究室

サークル紹介 サーフィン部

トピックス 医学部森下教授が成人T細胞白血病(ATL)の発症機序の一部を遺伝学的、分子生物学的に証明
「女子高校生のためのサイエンス体験講座 in 宮崎大学」を開催
医学部附属病院ドクターカーを導入
本学SD研修メンバーと大学生協の共同開発「もうくんキュービーストラップ」が登場!
ミャンマー科学技術省と交流協定(MOU)を締結
工学部セミナー「目指せGLOBAL ENGINEER!」を開催
「平成24年度みやざき新事業創出人材育成講座」が食の6次産業化プロデューサーレベル1~3に認証
日南市の崎田恭平市長による講義

イベントカレンダー

ディスカバ宮大 体育施設の貸出



宮崎の水環境、どうすれば守れる？

夏休みがやってきた。海に川に出かけて、夏気分を堪能！

水にドボンと飛び込む前に、ちょっと考えてみませんか？

海水浴にサーフィン、河川プール。海も川も、清らかな水に入つてのびのびと遊べるのは、なんてありがたいことだろう。当たり前之恩恵を受けてきた宮崎の大自然、水環境。これも先人たちが、水の生まれる源である山を守り、受け継いできたからこそ。今を生きる私たちも、大切に守り、次世代へと手渡していかなければならない。

森林〳〳河川〳〳小沼〳〳まち〳〳河口〳〳海浜〳〳沿岸といった水ぎわの実態調査を重ねながら、水質保全を研究テーマとしている「水環境研究室」。鈴木祥広先生に、現在の宮崎の水環境について、さらにどうすれば水環境を守るかについてお聞きした。鈴木先生は、北海道大学水産学部の松永勝彦先生（現名誉教授）の下で学び、共著書も出している。松永先生は、宮城県の漁師・畠山重篤さんが推進する「森は海の恋人」運動の学術面の協力者でもある。宮崎の森・山と海のつながりは、うまくいつているのだろうか？

宮崎の水環境が気になる！

「宮崎は面積に対して人口が少ないし、きれいな川が多いですよ」という鈴木先生の第一声に、まずはひと安心。山と海を考えたときに気になること

宮崎で最もきれいな川は？

宮崎の清流。幾つか頭に浮かぶが、鈴木先生は「日本中の水辺の生態学や生物学について調べている研究者にとって特に憧れの川は、北川です。奇跡の清流と言われている」と教えてくれた。アユがいて、ホタルがいて、美しい川にしか棲めない生物もいる。特に支流の小川（こがわ）は、日本全国でも極めてきれいな清流という。学生と一緒に水質調査に行くと、皆、思わず川の中に入っていくのだそう。「ミネラル分も少ない、蒸留水に近い状態の水が流れている。でも、実は我々からすると、あまりきれすぎで、やることがない（笑）。腕の見せどころがないですね。」

長期間携わってきたフィールドは、宮崎市の八重川。10年以上もサンプリングして水質調査している。徐々に回復傾向にあるが、汚染の原因はどこにあるかというところ、多くは下水道の整備と住民の意識の問題だといふ。

きれいな水環境を守るには

河川環境をよくしていくためには「まず、下水道を整備することが大切」。行政が下水道を整備すること、整備された下水道に住民が戸別に正しく接続すること、生活排水の処理率を100%に近づけていくことによって、河川環境は格段にUPするといふ。下水道が整備されていない地域では、コミュニティプラントや合併浄化槽を設置し、利用者が維持管理にも責任を持つ。現在の下水処理場では臭気も、ほとんどなくなつてきているという。カバーで覆うことで、臭いや飛散もなく、完全に処理した水はまったく匂わないそうだ。「日本の下水道の技術力は極めて高く、これほど細かく維持管理できていることは素晴らしい。ただ、古い下水道管や処理施設もあり、修復しながら技術で補っている」と鈴木先生。施設の更新が迫られている。



Profile 鈴木 祥広 【すぎ よしひろ】

宮崎大学工学部社会環境システム工学科教授
専門分野は環境水質工学、生態系も含めた水環境の保全・修復技術

美しい水環境を守る理由の最たるもの。「美しい海や川、自然は人の心を打つ。海辺の観光エリアの水を安全できれいにすることがゴール」。海〳〳山〳〳川の循環を知つて、できる努力をすることが、次世代へ、より良い水環境を手渡していくことになる。

健全な水環境の保全と地域産業への安全な水供給 環境汚染リスクに強靱な水資源の再生・浄化技術の開発

未来の宮崎の地域産業



一つに河川のダムの問題があるが、先生は九州電力や宮崎県とともに、ダムの調査にも入っている。例えば、一ツ瀬ダムの濁りの問題。山で土砂崩れがあると濁りが出るが、どこから出た土砂が濁りの原因なのか突き止めるという研究をしている。ダムのあるところと、さまざまな場所の土砂をサンプリングし、濁りがずっと続く場所の土砂を突

き止める。成分の組成を調べ、鉱物を同定することによって、その場所が分かれば、いち早く植林し、緑化していく。また、耳川のダム工事では、昔の良かった頃の川に戻すように、山の土砂や栄養分がダムに堆積せずに海まで流れていくように整備している。そこで、洪水と平時時にどんな土砂や養分がたまって、洪水時にどう流れるかを調査している。

「宮崎県の場合は、河川の水のほとんどが日向灘に流れ込み、多少の濁りや汚れは希釈されるため、海も美しいままと思われています。湾になつていると、赤潮の発生などが問題になりますから」と鈴木先生。思われた水環境、中でも最高の美しさを誇るところが知りたくなった。





西都市ブルーベリー植樹会を開催

4月26日(土)、西都市の「長園ブルーベリー葉栽培研究会」が開催するブルーベリー植樹会に本学の学生及び教職員がボランティアとして約30名参加し、20アールの農場に9,400本のブルーベリーの苗を植樹しました。

本植樹会は、「みやだいCOC事業」の一連で本学と西都地域の方とが連携して取組み、学生の地域を学びの場とした活動の促進や、本学と西都市の連携協定に基づいた西都市フードビジネス復興の一環としてのブルーベリー葉産地化促進を目的としたものです。

ブルーベリーの葉は肝がんの発生・進行や白血病などへ抑制効果があることが、宮崎県や本学などが2004年に始めた産学官連携の研究で判明。その後、農学部で國武久登教授らが、機能性が高く、葉を収穫しやすい「くにさと35号」を開発。世界初の葉専用品種として農水省に品種登録されました。

今回植樹したブルーベリーの葉は2年後の収穫を計画しており、健康ドリンクや栄養サプリメントなどの原料に使われる予定です。



みやだいCOCフーズサイエンスラボラトリー内覧会の開催

3月27日(木)、地域資源を活用した「食と健康」に関する教育研究と商品開発を目的に、みやだいCOCフードサイエンスラボラトリーを新たに整備しました。

また、4月23日～25日の3日間に学内外関係者を対象にして食品成分分析実習室及び地域農畜水産加工実習室の内覧会が行われ、延べ139名の参加がありました。

内覧会と並行して各機器の勉強会、取扱説明会も開催され、初日には地域農畜水産加工実習室で、取扱説明のデモンストレーションも行われ、参加者は熱心に聞き入っていました。

なお、「将来は学内だけでなく、学外の方々にもご利用いただけるように少しずつラボラトリーの体制を整えていき、宮崎県の基幹産業である農業振興に向け、地域資源を活用した新技術の研究を行うとともに、新たな商品開発を行いたい」との関係者の抱負が述べられました。

教職員紹介

宮崎の生活は理想的！ 実験と釣り、料理、お菓子作りの日々

IPS細胞(人工多能性幹細胞)やES細胞(胚性幹細胞)を活用した再生医療研究のため、2012年3月に宮崎大学に着任した本多 新先生。高校卒業後、一度は父親の仕事を継ぐため配管工の仕事に就いたが、生物教師を目指して大学へ進学したという。「自分で発見する方がエキサイティングだと思って」研究者の道へ。「宮崎での研究者生活は願ったりかなったりでした。釣りが好きで、将来は海を眺めながらの生活を夢見ているほど。福島で田舎育ちなので、自然に囲まれて

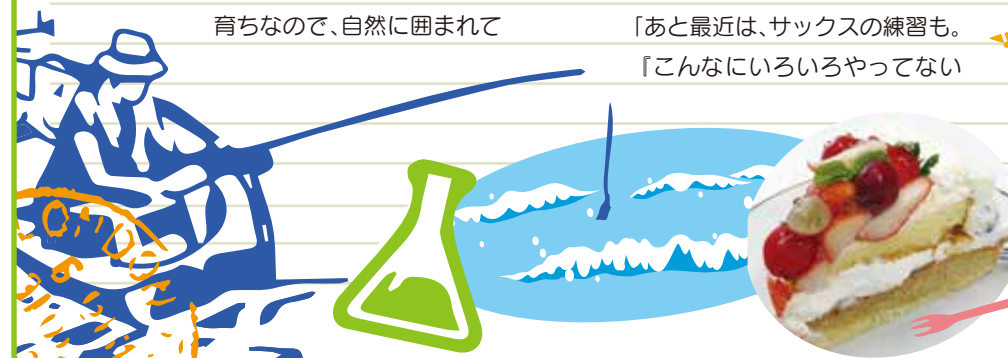
いるのも落ち着きます」とすっかり宮崎の生活になじんでいる。最近、なかなか行けないそうだが、宮崎市周辺での船釣りを楽しんでいる。夏は夜釣り。「シーンとした海で釣り糸を垂らして。釣れなくても、この時間がいいですよ」。料理好きで、昼と夜の分の弁当を持参する“弁当男子”。もちろん釣った魚は自分でさばき、ゼミ室で振る舞うことも。さらに、ゼミ室の皆さんの誕生日に、タルトを作ってくるほどの、お菓子作り好き。

「あと最近は、サックスの練習も。『こんなにいろいろやってない

で研究しなさい』って怒られますね」と笑う。趣味でストレスを発散しながら、普段は実験室にこもる日々。実験では、いつもいい結果が得られるわけではないが、「顕微鏡を覗いていて中で起こっていることは、人類で一番最初に自分が見ているかもしれない」と、後の世代につながる研究ができるのが大きな喜びだ。



宮崎大学
テニュアトラック推進機構
准教授 **本多 新**
専門分野：医学系・発生・生物学分野



ゼミ紹介 本多研究室

現在、学生6名、博士研究員1名、研究補助員1名が所属する本多研究室。研究の大きな柱の一つが、“iPS細胞”。マウス、ウサギなどの実験動物を使って、安全に細胞を変化させられるかという実験を重ねていく。ヒトでは解析困難な研究を複数の動物種で行い、ヒトiPS細胞を用いた再生医療研究へ役立てるのが目的だ。

「ウサギはたくさんの子供を産むことができる。さらにウサギから採れるiPS細胞は、ヒトと同じものなので、ヒトと同じ幹細胞を使って特殊な子供(キメラ)をつくる実験が可能だ」(本多先生)という大きなメリットがある。「現在ヒトから樹立されるiPS細胞の品質は70～80%と言える。世界的にもまだ誰も成功していないが、100～120%の完全な質のものをウサギで作り出すことができれば、ヒトにも応用できる。もっと質を高めていきたい」。



タルトの争奪じゃんけんが行われる(できるだけ大きいのをとるため)

ウサギiPS細胞樹立に成功 品質を高めてヒトへの応用を目指す



医学部との共同研究も多い。遺伝子破壊・改変技術(ゲノム編集)によって、ウサギにある病態をつくり出すことで、難治性疾患の治療法を見つけ出すことが可能になる。難治性疾患の治療法が確立されていないのは、治験数があまりにも少ないからという理由もある。多くのデータが集まることで、治療薬の開発もできる。

実験を行い、多くのデータを解析、顕微鏡を覗きながら一喜一憂するという研究は、「苦しいことも多いが、逃げ出さずに立ち向かうことが大事。一步一步、近づけばいい」と本多先生。ヒトiPS細胞を用いた再生医療研究について、日本はトップランナーだという。現在、そして未来の医療にどれほど貢献するのだろうか。今後の研究成果を楽しみに待ちたい。

<http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/maruhon/>

サークル紹介



サーフィン部

サーフィン部は毎週土曜日の午前中に、清武川河口で合同練習を行い、他の日は自主練習で個々の目標に向かって日々励んでいます。合同練習後には、いつもサーフィンを楽しませてもらっている海への感謝の気持ちを表し「ビーチクリーン」を行っています。

夏にはキャンプ、元旦には初日の出サーフィン、そして年に2回の種子島合宿があり、仲間との親睦を深めると共に、充実したサーフィンライフを送っています！日の出を海の上で迎えるあの清々しさはサーファーならではの幸せです。

サーフィンをやってみたい、海が好きなど少しでも興味のある方はぜひ一度サーフィン部へ足をお運びください！私達と一緒にサーフィンをenjoyしましょう！！



Seminar

トピックス



セミナーの様子

工学部セミナー「目指せGLOBAL ENGINEER！」を開催

工学部国際教育センター及び工学部教育改革推進センターでは、5月8日(木)、9日(金)の両日工学部セミナー「目指せGLOBAL ENGINEER！イギリス大学での授業模擬体験2日間イベント」を開催し、100人を超える学部生、大学院生、教職員が参加しました。

このセミナーは、工学部国際教育センターに4月に着任した福島三穂子助教と知人であるイギリスのセックス大学のDr. Carlos Gigouxを講師とし実現したもので、「工学部の英語教育を考える」機会を作ること、また、学生達に英語のセミナーや講義に触れる機会を増やし、国際的なキャンパスライフを提供することを目的に開催されました。

第1回目は「留学しよう！：イギリスの大学での経験 “Let's Study Abroad: The experience of British Higher Education”」と題し、講師らのイギリス留学の実体験をもとに、グローバルな視野を持つ事の大切さ、また本学工学部の学生としてプライドを持って世界に発信する事の必要性が訴えられました。第2回目は「先住民の生活と持続可能な開発：気候変動と採取産業が及ぼす影響 “Indigenous Peoples Lives and Sustainable Development: The impact of Climate Change and Extractive Industries”」と題し、環境問題を例にInterdisciplinaryな視点から Global Engineerとして何を考えるべきなのか、について講義が行われました。

ユーモアを交えながら行われた両セミナーについて、参加した学生からは、「今後もこのようなセミナーを行ってほしい」、「もっと英語を勉強して理解できるようになりたい」、「貴重な体験だった」など好評で、今後も様々な講師を迎え、シリーズ化して実施する予定です。

「平成24年度みやざき新事業創出人材育成講座」が食の6次産業化プロデューサーレベル1～3に認証

農学部は、農林水産省の委託を受け、農業の6次産業化に対応できる人材を育成するための講座として平成24年度に「みやざき新事業創出人材育成講座」を、平成25年度に「なか九州」新事業創出人材育成講座」を実施してきました。この度平成24年度実施の本講座が、平成26年2月6日に内閣府の国家戦略プロフェッショナル検定「食の6次産業化プロデューサー（愛称：食Pro.）」の認証を受けました。

「食の6次産業化プロデューサー」とは、生産（1次産業）、加工（2次産業）、流通・販売・サービス（3次産業）の一体化や連携により、地域の農林水産物を活用した加工品の開発、消費者への直接販売、レストランの展開など、食分野での新たなビジネスを創出する人材のことで、レベル1～レベル7までが設定されています（現在はレベル4までの認定）。

今回の認証により平成24年度の修了生はレベル3（事業主・法人スタッフ対象）までの申請が可能となりました。なお、現在、平成25年度実施分についても認証申請を行っています。

レベル認定された本講座修了生による、宮崎県の地域資源を活用した6次産業化のさらなる発展が期待されます。



認証書を前に記念撮影をする菅沼龍夫宮崎大学長ほか



「食Pro.」認証書（レベル3）



学生に向けて講義する崎田恭平日南市長

日南市の崎田恭平市長による講義

6月12日(木)、本学の共通教育教養発展科目の1つである「宮崎県の経済と地域の活性化」（担当教員：根岸裕孝教育文化学部准教授）の講義の一環で、日南市の崎田恭平市長による講義が行われました。

崎田市長は、まず大学時代のボランティア経験が市長を目指すきっかけになったことや宮崎県庁職員時代に地域の人々から学んだことなどを紹介しました。その後、学生に日南市のことを知ってもらうために、現在日南市が取り組んでいる特色のある政策などを紹介し、日南市の魅力をアピールしました。

講義の最後には、質疑応答の時間が設けられ、学生から「大学生活を充実させるためにはどうしたらよいか」や「地域をより知るためにはどうしたらよいのか」などの質問があり、崎田市長は「アンテナを高く広げ、地域に一步踏み込み、人と出会うことが大事。学生時代にいろんなことに挑戦してください」とアドバイスしました。

講義に参加した学生らは、貴重なお話を聞くことができ、大変有意義な時間となりました。

EVENT CALENDAR イベントカレンダー

※日程等は今後変更になることがあります。詳しくはHPをご覧ください。



地域情報サイト「バームスまいふれ」でも、地域一般の方々を対象とした公開講座や講演会等のイベント情報を発信しています。

地域情報サイト「バームスまいふれ」 <http://miyazaki.mypl.net/>

公開講座	【問合せ先】産学・地域連携課 ☎0985-58-7188 複数のカテゴリーを設け、地域の人々の関心や知的欲求に対応するとともに、研究成果を発信しています。
	朗読で味わいを深める日本文学 ～自らの声で表現し思考する魅惑の文学世界 日 時 5月10日(土)～平成27年1月10日(土) 計8回 場 所 教育文化学部 L205教室他
	医学部公開講座 ～すこやか長寿社会～ 日 時 7月28日(月)～8月1日(金) 計5回 場 所 JA・AZMホール
	初心者のための太陽電池入門 日 時 8月8日(金) 場 所 工学部 B203教室(予定)
	家庭菜園講座 ～クリスマスに向けクリスマスチューの材料を栽培・調達せよ！編 日 時 8月16日(土)～12月20日(土) 合計6回 場 所 農学部木花フィールド(農場)
	海を食べる!! ～主に食品として利用される海洋生物の現状と諸問題 日 時 8月23日(土)～9月20日(土) 合計5回 場 所 農学部延岡フィールド(水産実験所)
	医学部附属病院看護部公開講座 ～看護師が行う呼吸理学療法・褥瘡予防のスクンア 日 時 11月8日(土) 場 所 医学部総合教育研究棟
	つながるいのち ～子どもの未来を考えよう～ 日 時 11月予定 場 所 カルチャープラザ延岡(予定)
	耳の日市民講座(講演会・相談会) 「耳をたいせつに」 日 時 平成27年3月予定 場 所 KITENコンベンションホール(予定)

イベント	オープンキャンパス 入試課 ☎0985-58-7138	日 時 8月8日(金)、9日(土) 場 所 木花キャンパス、清武キャンパス
	宮大の日 総務課 ☎0985-58-7114	大学の教育研究に関する取組や学生サークル活動等の紹介を通して、地域の方々に宮崎大学をより身近に感じていただくことを目的としたイベントです。 日 時 9月14日(日) 場 所 清武町文化会館、四季の夢、清武川河川敷
	農学部オープンキャンパス 農学部 教務・学生支援係 ☎0985-58-3834	学科案内・入学者選抜要項の説明及び模擬授業・模擬実験等の体験学習 日 時 10月25(土) ※今後日程が変更になる可能性があります 場 所 延岡フィールド(水産実験所)
	きよかさい 清花祭(大学祭) 学生生活支援課 ☎0985-58-7135	日 時 11月14日(金)～16日(日) 場 所 木花キャンパス、清武キャンパス
	第4回 ホームカミングデイ 宮崎大学同窓会連合会事務局 (総務課) ☎0985-58-2854	卒業生の皆様に「母校宮崎大学」に集い、母校の近況に触れ、懐かしい恩師や学友との交流親睦を深めていただくために、大学が卒業生の皆様をお招きするものです。 日 時 11月16日(日) 場 所 木花キャンパス
イブニングセミナー 研究推進課 ☎0985-58-2882		教育・研究の成果を発表するイブニングセミナーを開催しています。 日 時 7月24日(木)、9月11日(木)、11月(予定) 詳しくはHPをご覧ください。

トピックス

医学部森下教授が成人T細胞白血病(ATL)の発症機序の一部を遺伝学的、分子生物学的に証明

2月27日(木)、医学部森下和広教授は、国立がん研究センター研究所、理化学研究所などと共同で研究を行い、宮崎県を含む南九州に多い風土病・成人T細胞白血病(ATL)の発症に関わる遺伝子異常を発見した研究発表を行いました。また、この発表に先立ち、前日の2月26日(水)に国際学術雑誌Nature姉妹誌「Nature Communications」に一連の研究をまとめた論文が掲載されています。

森下教授らは、複数のATL患者の遺伝子を解析したところ、がん化した細胞内で「NDRG2」遺伝子が減少している事をつかむとともに「NDRG2」が正常に発現することにより、がん化を抑える因子「PTEN」を活性化させATLの進行を抑えるメカニズムを解明しました。また、胃がんや肝臓がんなど多くのがん細胞でも同様の現象が確認されたとのこと。

森下教授は「PTEN」が不活性化しないように作用する酵素の特定・解析も進めており、「成人T細胞白血病は宮崎県でも深刻な病気の1つであるので、いち早く臨床現場で活用できるよう製薬会社との共同研究に着手、新薬開発につなげたい」と話しています。



研究成果を発表する森下教授

「女子高校生のためのサイエンス体験講座 in 宮崎大学」を開催



医学部での体験講座の様子

3月4日(火)、5日(水)の2日間、県内の1～2年生の女子高校生を対象としたサイエンス体験講座を開催しました。毎年県立高校入試の日程にあわせて開催する本講座は、本学が取り組む男女共同参画推進事業の一環で、将来の進路を考える女子高校生に理系の多彩な面白さを知ってもらい、進路選択の可能性を広げてもらうことを目的としています。教職員や学生の協力や支援のもと、医学部2講座、工学部3講座、農学部4講座、フロンティア科学実験総合センター1講座の計10講座を開講し、70名の女子高校生がさまざまな実験や講義を体験しました。

参加者からは、「今回の講座を通じて、もっと勉強したい、理系の仕事に就きたいと思った」「物理初心者の私でも物理になじむことができた。宮崎大学に入学するという夢がさらに強くなった」「大学の様子や空気を肌で感じることもできた」などの感想が寄せられました。

また今回は、例年応募者多数のため参加できない希望者がいることを受け、4日(火)には講座と別に「スペシャル企画：先輩リケジョが教える宮大の魅力」を開催し、24名の女子高校生が参加しました。この企画では、過去にサイエンス体験講座を受講したことのある本学学生13名の協力を得て、学内施設の見学やランチを食べながらの交流会などを行い、先輩学生のリードで終始なごやかなムードでの交流が進んでいました。本企画の一環として、午後からは、理系漫画家はやのん氏を講師に迎え、「「理系」で自分を拓く！」というタイトルでセミナーも行い、参加者は「新しい何かにチャレンジすること」「いろんな人との出会いを大切にすること」などはやのん氏自身の体験を踏まえたメッセージに熱心に耳を傾けていました。

医学部附属病院ドクターカーを導入

3月19日(水)、医学部附属病院にドクターカーが導入されました。

ドクターカーはドクターヘリの出動できない悪天候時や夜間に医師や看護師を乗せて現場に急行し、患者を乗せた救急車と途中で合流することでいち早く診療をすることができます。また、東九州自動車道が全面開通したことによって本附属病院と延岡との所要時間が約1時間半となり、活用範囲が拡大され迅速な救命活動に期待が高まっています。

4月中旬から本格的に移動しており、夜間の出動時間は17時から23時としているが、将来的には深夜の出動も検討しています。

医学部附属病院救命救急センターの落合秀信センター長およびドクターカー導入を担当した安部智大医師は「ドクターカーの導入で本県の救急医療の向上につなげたい」と話しています。

導入されたドクターカー



本学SD研修メンバーと大学生協の共同開発「もうくんキューピーストラップ」が登場！

本学オリジナルキャラクター「みやだいもうくん」のグッズに急展開です！

この度、本学の研鑽グループ支援研修(SD研修)メンバーによる「みやだいもうくんグッズの充実による宮崎大学ブランド発信力向上プロジェクト」の成果として、本学生協と共同開発した「もうくんキューピーストラップ」が登場しました。

あの国民的人気のキューピーと、本学オリジナルキャラクター「みやだいもうくん」のまさかのコラボグッズ「もうくんキューピーストラップ」は、本学生協売店だけの限定販売となります。

自分用をはじめ、お土産やプレゼントなど大活躍まちがいなし！ぜひ、お手にとってご覧ください！

ミャンマー科学技術省と交流協定(MOU)を締結

4月29日(火)、菅沼学長をはじめとする本学関係教職員がミャンマー連邦共和国(以下、ミャンマー)科学技術省を訪問し、高等科学技術局と交流協定(MOU)を締結しました。

ミャンマー科学技術省高等科学技術局は、同国内の工学系大学を統轄する機関であり、平成26年1月に科学技術省を表敬訪問し、工学系分野における具体的連携について協議したことから今般の協定締結が実現しました。調印式には、Ko Ko Oo 科学技術大臣及びAung Kyaw Myat科学技術副大臣も臨席。冒頭において、同大臣から、宮崎大学の国際協力における取組について感謝の意が伝えられると共に、今後のミャンマーにおける工学系教育発展に向けた宮崎大学への期待も述べられました。

同国では政治・経済改革が急速に進む中で、工学系高等教育の充実及びそれを担う教員の育成が喫緊の課題となっています。今回の協定締結により、同省が統轄する工学系大学とダブルディグリーをはじめとした学術及び学生交流が進み、高度な知識と技術を持ち合わせたグローバル人材の育成が進展していくことが期待されます。

なお、協定調印後、本学関係教職員が工学系の4大学を訪問。調印式の様子がテレビや新聞等の地元メディアに大きく取り上げられたことから、各大学で多くの質問が寄せられ、それぞれ数時間に及び具体的交流に向けた協議を行いました。



中央:Ko Ko Oo 科学技術大臣、中央右:菅沼宮崎大学長



宮崎大学 体育施設の貸出



Let's play Sports



市民の方も、体育施設が利用できます！

宮崎大学木花キャンパス・清武キャンパスには、体育館や野球場、テニスコートなど、さまざまな体育施設を備えています。これらの施設は、学生の授業や課外活動等に支障がない範囲で、公共的な体育行事だけでなく、企業や一般市民の方も利用することができます。利用する場合は、予約状況を確認の上、申請書を提出してください。料金は前納となります。ただし、営利を目的とするものについては使用できません。

施設／使用料(1時間あたり)

木花キャンパス

- 全天候型テニスコート(1面)／500円
- クレイコート(1面)／500円
- 野球場(全面)／2000円
- 陸上競技場(全7コース)／4000円
- ラグビー場(全面)／2000円
- サッカー場(全面)／2000円
- 大体育館(全面)／2000円
- 小体育館(全面)／1000円
- 体育館2F(武道場)／1000円
- 50mプール(全7コース)／2000円
- 清花グラウンド野球場／3000円
- 清花グラウンドラグビー・サッカー場／2000円

清武キャンパス

- 全天候型テニスコート(1面)／500円
- 体育館(全面)／2000円
- 50mプール(全7コース)／2000円



陸上競技場



テニスコート



大体育館



武道場



清花グラウンド野球場

使用手続きなどの詳細については、各担当係までご連絡下さい。

予約状況の確認・お申し込みは

受付時間 8:30～17:00

木花キャンパス：学生支援部学生生活支援課学生生活支援係
TEL 0985-58-7135・7142

清武キャンパス・清花グラウンド：医学部学生支援課学務係
TEL 0985-85-9190

宮崎大学メールマガジン好評配信中

毎月1回、イベント情報や最新ニュースなどを紹介するメールマガジンを無料配信しております。登録方法はホームページをご覧ください。



宮崎大学 facebook 公開中



大学公式のページを公開しております。みなさんからのたくさんの「いいね!」をお待ちしております。



宮崎大学広報誌『宮崎大学MAGAZINE』2014 vol.17 [発行日] 平成26年7月24日

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/>

[編集発行] 国立大学法人宮崎大学 広報戦略室 〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地 (0985)58-7114

[印刷] 北一株式会社

本誌を読んでものご感想などご自由にメールでお寄せ下さい。✉ kouhou@of.miyazaki-u.ac.jp

*この宮崎大学MAGAZINEは、一般の方々に対象に宮崎県庁や県内の各市町村役場、図書館、道の駅、銀行などで配布しています。バックナンバーは本学ホームページをご覧ください。



宮崎大学HP



大豆油を主成分としたインキを使用しています



古紙配合率100%再生紙を使用しています

*本誌掲載の記事・写真・イラスト・ロゴ等の無断転載を禁じます。